

# 企業がスポーツチームを持つ意味

## ～事例 六花亭製菓株式会社～

山本ゼミナールフィールド実践 企業調査班  
米田尚平 前田翔斗 折笠創亮

### 第一章 はじめに

今回私たちは、企業調査をするにあたって、何を調査するか考えていたところ、私たちは部活動をしているので、スポーツチームを持っている企業に興味を持った。そこで、北海道の菓子業界の中で唯一スポーツチームを持っている、六花亭製菓株式会社について調べた。なぜ菓子業界に焦点を当てたかというと、スイーツ王国北海道ともいわれるくらい、お菓子が有名な地域であるからだ。

そこで、企業がスポーツチームを持つことに意味があるのか？という点に疑問を持った。私たちはスポーツチームを持つ理由を、知名度アップや社会貢献のような、社外へのアピールで売上げに反映させている事だと考えた。

しかし、六花亭製菓株式会社を調べてみると、それだけではないことが分かった。どのような意味があるのかヒアリング調査をもとに論じていきたい。

### 第二章 調査概要

#### (1)調査目的

まず、企業がスポーツチームを持つ意味にまず疑問を持った。すると、他にも疑問に思うことがあった。企業がスポーツチームを持つことにより、経営に活かされているのか？企業はスポーツチームにどれくらいの支援を行っているのか？選手は、仕事とクラブ活動をどのように行っているのか？選手以外の一般社員はクラブ活動に対してどのような意見を持っているのか？という疑問を持ち、スポーツチームを持つ企業を調査することにした。

北海道でクラブチームを持っている企業は少なく、その中でもお菓子業界で唯一スポーツチームを持っている、六花亭製菓株式会社が有名である。それはまさに会社の知名度を上げるためにスポーツチームを持っているのだろうと考えることができる。そこで有名な六花亭を事例として調査することにした。

## (2)調査対象

北海道帯広市西 24 条北 1 丁目 3-19 六花亭製菓株式会社 本社 文化広報部

## (3)調査経過

まず、北海道の菓子業界について調べて、六花亭製菓株式会社の概要について調べた。そのなかで議論し本調査に向けての準備をしていった。

本調査は 12 月 11 日に六花亭製菓株式会社の本社に行き、文化広報部担当の成田純子氏にヒアリングを行った。

以下、ヒアリング前の調査と、ヒアリング内容を中心にまとめていく。

## 第三章 北海道の菓子業界

食材の供給基地といわれる北海道には、それらをいかしたオリジナルの菓子やスイーツ等の製造業者が数多く存在する。ネット販売や物産展などを通じた販路開拓に注力することで、道内のみならず、道外でも商品ブランドが確立されたリピーターを確保するとともに、観光土産品としても支持を受けている業者も多い。

2010 年度売上高は、道内主要菓子メーカー137 社のうち「1 億円以上 10 億円未満」が 109 社で最多となり、全体の約 8 割を占めている。このほか、「10 億円以上 100 億円未満」が 20 社、50 億円以上 100 億円未満」が 5 社、「100 億円以上 500 億円未満」が 2 社であった。

また、主要 137 社のうち 2008 年度～2010 年度の 3 期連続で売上高が判明した 121 社の総額は 2 期連続で増収を維持、また、2009 年度と 2010 年度の損益状況が判明した 76 社のうち「2 期連続黒字」が 71.1%を占めるなど、道内の菓子業界では収益面で堅調な企業が多数を占めている。

### 〈北海道売上高ランキング〉

1 位	六花亭製菓株式会社	185 億円
2 位	ロイズコンフェクト	180 億円
3 位	石屋製菓	91 億 700 万円
4 位	柳月	76 億円 7000 万円
5 位	ケイセイセイ	68 億 5400 万円

## 第四章 六花亭製菓株式会社

六花亭製菓株式会社は、北海道帯広市に本社を構える菓子メーカーである。創業は、1933年で代表者は、小田豊氏である。事業内容は、和洋菓子の製造・販売と美術館などの運営も行っている。従業員数は、1269名（正社員は890名パート390名）である。店舗数は、帯広地区15店舗、札幌地区および札幌近郊38店舗、釧路地区4店舗、函館地区4店舗、旭川・富良野地区2店舗の合計63店舗になる。

経営理念は「仕事も遊びも一生懸命」で、現在の社長、小田豊氏が決めた言葉である。理由として、昔は忙しすぎて社員たちが仕事に身が入らない時期があり、それではいけないと考え、仕事だけでなく遊びも取り入れることになったそうである。そこでクラブ活動が始まり、会社が支援していくことになった。

### 〈クラブ活動の概況〉

- ・軟式野球部（一軍・二軍・三軍・壮年チーム）

昭和30年にチームが創立され、1軍は平成10年に2部で全国制覇、平成16年に1部で全国制覇、壮年チームは平成19年～平成24年に全道制覇している。

- ・サッカー部

最初は同好会として始まり、平成23年全国に大会出場している。

- ・管楽器アンサンブル

平成9年に創立され、平成20年全国大会に出場している。

- ・応援団・チアリーダー部

社内表彰時の余興、軟式野球部全国大会出場時の応援をしている。

- ・女子バスケットボール同好会

平成4年に創立され、平成23年全国大会に出場。現在は同好会として活動している。

- ・男子アイスホッケー部

部員数が30名で趣味程度に活動している。

- ・茶道部

礼儀作法を学ぶため趣味程度に活動している。

活動は7つの分野で行われている。

### 〈支援方法については次のようなものがある〉

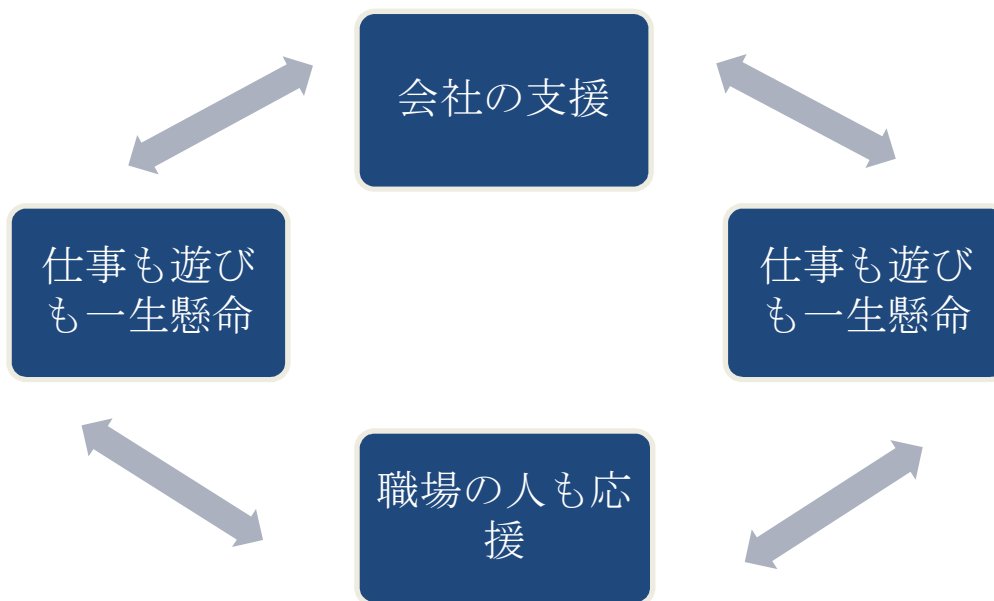
- ・遠征費・帯同費の支援
- ・ユニホーム・衣装の支援（六花亭の制作部門でデザインを手がける）
- ・用具・楽器代の支援
- ・公休（有給休暇以外）
- ・勤務時間の調整
- ・球場・室内練習場（軟式野球部）
- ・トレーニングルーム（軟式野球部・サッカー部）
- ・練習場所の費用
- ・スカウト活動

### 〈各クラブの支援額〉

各クラブの支援額については、軟式野球部では売上高の 0.07%程度と言われており、金額にすれば約 1295 万円となり、かなりの支援が行われている。サッカー部は売上高の 0.03%～0.04%程度と言われており、金額にすれば約 500 万円～約 700 万円とこちらもかなりの支援が行われている。管楽器アンサンブルは売上高の 0.003%～0.004%程度と言われており、金額にすると約 50 万円～約 70 万円の支援がされている。その他のクラブは少しの費用が支援されている。

### 〈六花亭製菓株式会社がスポーツチームを持つ意味〉

六花亭がスポーツチームを持つ理由は、社員の士気高揚のためであった。会社がクラブを支援することによって、選手は会社への恩返しで仕事も遊びも一生懸命になる。仕事も遊びも一生懸命の選手たちを、一般社員の人たちは仕事とクラブ活動の両面で応援してくれる。その応援により選手たちの士気も上がり、仕事と遊びも一生懸命になる。仕事が一生涯懸命ということは会社にとってもいいことで、また支援を増やそうとすることもある。このようなサイクルで六花亭のクラブ活動は、社員の士気高揚につながっており、経営理念が実現される。



## 第五章 まとめ

六花亭にヒアリングする前は、企業がスポーツチームを持つ意味は社会貢献や知名度 UP で社外に向けたアピールをして売上に反映しているためだと考えていた。しかし、六花亭でのヒアリング調査では、「社会貢献や知名度 UP で社外にアピールをして売上に反映させようとしているのですか？」と聞くと、「そのようなことではなく、社員の士気高揚のような会社内部のためだけにクラブ活動をしています。売上のことなんか考えてない。」という回答であった。一般企業がスポーツチームを持つ意味には、外部的にアピールして売上に反映させることを目的としている場合が多いが、六花亭では、社員の士気高揚といった会社内部のためを目的としてスポーツチームを持っているということがわかった。そして、それは経営理念を実現するための1つの手法であることが明らかとなった。